



日日進歩

会報文中の [番号] は、会員番号を示します。

香港は買い物&グルメの女性向きの街……そんな世間の固定観念は吹き飛ばしましょう。
男性会員お三方、それぞれの春の香港ひとり旅。各人各様、楽しんできたようで……。

男の「おひとりさま香港」

「男ひとり」概論

[003] 田村 善隆

特に決めていることではありませんが、このところ毎年3月後半または4月前半にひとり香港に行ってます。なぜかと言うと、秘書長が2月にHKマラソンに出場してるのですが、私は確定申告期間が終わるまで休みが取れず、ひとりで行ってずるいじゃないかってことで行くようになりました。

ひとり香港……いいですよ～

行ったら何をしているか詳細は秘密ですが、必ず行くのは旺角の床屋（ついに顔を覚えられたようです）くらいで、特に行き先を決めて行動したりは滅多にしません。自分の場合食べ歩きがメインで、まさに一日中飲み食いしてるってイメージです。朝は飲茶やお粥、昼は茶餐廳でのせ飯（叉焼飯みたいな）か炒飯、おやつに雲吞麵、夕食は海鮮屋で蝦か蟹で少し飲んで、夜食に火鍋が定番です。ひとり旅は食事に困るとよく聞きますが、香港の場合メニューさえ読めれば全然困らないはず。ひとりで火鍋は驚かれますが、肉・魚・野菜1種類ずつなら誰でも食べられます。

男のひとり香港で困ることはただ一つ。皆さんが一番聞きたいことをしてるんじゃないかって疑念を持たれることですな。いかがわしいところに入りしてるんじゃないかとか… 広東語で込み入った会話が出来ないのではハマりやうがないのですよ。



てな訳で今年は東日本大震災から2週間後で自肅ムードがプンプン漂っていましたが、別にやめる理由も無いので、4月1日から5日の日程で行ってきました。ちょうど銅鑼灣のピクトリア公園で日本の被災者を励ますチャリティコンサートが開かれていて、中央図書館前の歩道橋から中を覗いてきました。

ひとり旅はモノローグ

[001] 小柳 淳

香港初日、ポンッと歩道に立つ。「さて、左右どちらに行こうか」頭の中で私が問う。「何も決めてないけど、右に行くか」問われた私が応える。ひとり旅は無音のモノローグの繰り返しだ。



「うわっ、派手ッ」香港の看板は急速にLED装飾が拡大して、あちこちでキラキラピカピカチラチラ光っている。特に茶餐廳の看板へのLED進出が増えていて、したがって街の至るところでキラキラ看板を掲げた店が目につくようになった。だから「派手だなア」に加えて、「おお、この店もか」「LEDの地色が徐々に変わっている!」「カメラを出そう」などモノローグパリエーションも増殖していく。

「ここはデザイン凝っているなあ」荷李活道や彌敦道を歩いていると、歩車道間の柵に目がゆく。「マンゴー使用のメニューが増えすぎたから、パス」と許留山の前を歩く。ひとり旅は頭の中で響くモノローグがダイアログになりかかる。登場人物はひとりだけ。でも、ひとり旅は話が早い。次々と気まぐれに合わせて歩く方向が変わる。小気味よくはあるのだけれど、ちょっと悲しいのは食事。ひとりではたくさん種類を食べられない。やっと決意した1、2品が外れたとき、旅の連れがいれば「うーん、外れちゃったね、エヘヘ」で済むし、気分も持ち直せるのだけれど、ひとり旅ではそうはいかない。このリカバリー会話をモノローグですると残念な気分がむしろ増幅してしまう。「まっいいか」と短く明るく無音で呟くしかないのだ。

「男香港」はB面に続きます。

さてここで島津美穂さん[022]から情報メール。なにになに… 「中華おっさん明星った→という診断サイト」? 「中華明星の家族が出来てしまうのですよ」?

明星ったって何ですか

興味のある方は下記URLでお試ください。

<http://shindanmaker.com/13731>

ちなみに島津さんの結果は『父は周星馳、兄は黎明、弟はジミー・リン、恋人はロイ・チョン、隣人はサモハン』だそうです。

「聞く方も聞く方だが答える方も答える方」。前号の記事が頭を離れぬままに香港へ。翌日、中環の交易広場からバスで香港仔へ向かう。目的地に到着寸前、目に飛び込んできた「華人永遠墳場」の文字。ふだんなら素通りしてしまうところだが、何故か気になる。予定などあってないのが一人旅。バスを降りるや珍寶王国はもちろん、香港仔海濱公園にも目もくれず「墳場」にとどめて返す。

高層アパートに見下ろされた、半すり鉢状の斜面に、段々畑のような15段の平地が整地され墓石が整然とならぶ。各段は26段の階段で結ばれている。最上段まで行くには350段余も登らなければならない。場所柄お年寄りも多いが、皆疲れた様子もなくゆっくりと上がっていく。さながら天国への階段をたどるように。



居並ぶ墓石に異文化を感じる。日本なら「〇〇家の墓」と書かれているが、こちらは個室。「張母〇氏之墓」など個人の名前が書かれ大半の墓石には顔写真が付く。中には夫婦で一つの墓石、というものもある。大きさはその人の生前の地位を象徴するのか、高さ約1メートル、幅30センチ程度の墓石だけのものから、両翼に袖を持ち高さも2メートルを超えるものまで、さまざまだ。

面白いのがその向いている方向。ほとんどは南を向いているが、中には東や南東を向くものもある。「何故だろう」。聞いてみたい衝動にかられたが、「聞く方も聞く方だ」といわれかねないので、ぐっとこらえる。異国の男一人がカメラを首からさげて、「墳場」を散策しているだけで、十分怪しいのだから。

ひとたび「墳場」に意識がいくと探しもしないのによく目に付く。香港仔からのバスがトンネルを出た直後の跑馬地の左側。さらには機場快線の青衣付近などなど。そろそろ人生最期の一人旅が近づいてきた証か。合掌。

渡部真澄

わたなべ
ますみ
[033]

私は香港絡みになると、行動力が増すようです(言い換えれば図々しいだけ?)。

2009年夏の昭和女子大のセミナーで“会長の著書を持参して(図々しく)サインを頼んだ”のは私です。

会社の他部署の香港人留学生(現在香港へ帰国)には、(図々しく)メアドを聞いて友達になりました。

周りの人に「なんで香港に何回も行くの?」と聞かれます(会員の皆さんもですか?)。最近考える、私が香港を好きな理由の1つに「香港人の日本好き」があると思っています。

でも香港人が日本に旅行で来て不便なことって多そうだなあ…と思っていたところ、香港の書店で出会った本を紹介します!



沙沙奇縁鼻子さん(香港人)+佐々木聡美さん(日本人)著『不失禮遊日小手帳』。香港人が日本旅行の際に困らないように、日本でのマナーやお店で役に立つ情報がいっぱい。そして、著者のお二人とも友人になっていただきました!

「同じ香港好きという気持ちは人との関係を結びますね」とは、聡美さんから頂いたメッセージ。HKPTAしかり、本当に実感することばかり…。(会長、皆様、ありがとうございます!) 香港を通じて自分にもいろいろな変化があり、香港に出会えて幸せだなあと思います。

今回大震災があり、香港から日本へ来る人も、日本から香港(海外)へ行く人も減っています。一日も早く日本が復活して、お互いに行き来して、日本好きな香港人・香港好きな日本人が増えることを願って、これからも【香港活動】を続けたいと思います!

日本を宣伝!今回はSOUSSOUというお店の和服+足袋を着用。



會員
簡介



空港の看板「日本!加油!!」

イデおくさま

井出太太[017]、待ってましたよ。



関根寛さん[014]撮影

最近、パーティや行事にとんと顔を見せなかった井出ご夫妻。どうしたんだろう……実は篤子さんが資格取得の勉強を続けていたとのことでした。

先日、やっと勉強も一段落!数年もの間封印していた「香港」も、また楽しめるようになるそうです。

「香港に行って、東星斑(魚)の清蒸を食べたいわ!」と元気なメッセージもいただきました。まずはパーティでお会いするのが楽しみ!

今年度入境回数
調査実施中。
香港行ったら
会長に連絡を。

後記

青田さんが原稿とは関係ないが、と送ってくれた写真です。「モスクの丸屋根にとまるハトの群れが、丁度、はげ頭に毛が生えたように見えたので…。」ひとり旅って、変なところに目がいくんですね。笑っちゃいました。(会報担当・002)

